

心のゆたかさをはぐくむ⑨

ゆとりある人生を演出する ②

今回は、「音楽療法」の実践研究の様子から、主に医療分野で発展してきた「音楽」の治療効果を、福祉の対人援助活動に効果的に活用していくために必要な事柄を考えました。

今回は、「財団法人動物病院福祉協会」が行う、コンパニオン・アニマル・パートナーシップ・プログラム(CAPP)の活動から、動物と人間が築く「絆」から生み出される様々な効果についてご紹介してみたいと思います。

人と動物の絆をはぐくむ

一九七八年に創立、一九八七年法人化された「財団法人動物病院福祉協会」(以下、協会)は、動物病院が中心となり、人と動物との絆(ヒューマン・アニマル・ボンド=HAB)を大切に、その普及に向けた様々な活動を行っています。

その一つ、コンパニオン・アニマル・パートナーシップ・プログラム(CAPP)は福祉施設や学校、病院等にボランティアと動物が訪問して、動物とのふれあいを通じ、生活の質の向上や情緒的安定などを旨とする動物介在活動です。

「一九八六年から始めたこの活動は、本年三月で五千二百回を数えました。当初は動物が人間と関わることで、感染症などによる病気やけがなどの安全性が心配されました。しかし、動物の躰や健康、衛生管理等の厳しい基準を設けた結果、活動中の事故や人へのアレルギー反応な

どの問題は今のところ起こっていません。最近では、動物との関わりから生み出される多くの効果が認められ始めており、活動の要望が増えてきています」と協会副会長で、水谷動物病院(藤沢市)の獣医師・水谷渉さんは話します。

動物の温もりが伝えるもの

活動を見学させていただきまし



動物たちのひたむきな姿とボランティアの温かい言葉がけで自然に場がなごんでいく

た。その日訪問したのは、茅ヶ崎市にある知的障害者更生通所施設「湘南鬼瓦」。ボランティアの方々や学生、動物病院のスタッフなど約十五名のほか犬や猫、兎たち十数頭(羽)が、事前の入念な打ち合わせの後、利用者の集まる広間に入っていきます。

訪問を楽しみにしていたように、小走りに近寄ってくる人。恐々とそばまでやってきて、軽く触っては離れていく人。遠巻きながらも、



利用者のしぐさを見ていると慈しむ気持ちが満ちてくる様子が分かる

興味深げに様子を見つめる人。そのどの人も、見る見るうちに和んだ表情になり、初めは無口だった人も次第に歓喜の声をあげ、動物に語りかけるようなしぐさをするなど、その変化には目を見張るも

のがあります。

「多くの方は、動物たちの来訪を指折り数えて心待ちにしています。一見、興味がなさそうな素振りをしたり顔を背けたりしている方でも、実は活動の輪の中に入りたいと思っている方も少なくありません。そういった方には、動物との接し方を丁寧に伝え、きつかけを作りながら徐々に交流していくよう配慮しています。そんな、『声をかけてみよう、手を伸ばしてみよう、関わってみよう』という意欲を育んでいくことが、活動の大切なポイントとなります」と水谷さん。

動物たちはどんな時も鳴くこともなく、好奇心いっぱい利用者に関わっていきます。しかし、そのつぶらな瞳の奥にある心の微妙な変化を、スタッフは常に注意深く観察しています。

「利用者さん同様、動物たちも活動する日を楽しみにしています。その証拠に、私たちが活動ユニフォームを着たり道具を準備し始めると、興奮してはしゃぎ回ったりする子もいます。皆、人間とのふれあいが大好きなのです。しかし、利用者の皆さんが嬉しいあまりに力を入れ過ぎて扱ったり、長時間拘束すると、楽しさが強いストレスに転じてしまうこともあるので